

「技術・芸術科合同授業の研究と実践」

筑波大学附属駒場中・高等学校 技術科・芸術科

音楽	遠藤	正之
美術	土井	宏之
工芸	佐藤	千博
書道	廣瀬	裕之
技術	岡村	彰

「技術・芸術科合同授業の研究と実践」

(昭和62年度)

音楽	遠藤	正之
美術	土井	宏之
工芸	佐藤	千博
書道	廣瀬	裕之
技術	岡村	彰

はじめに

芸術4教科(途中から技術科も加わり5教科)で始めた「技術・芸術科合同授業の研究と実践」も、途中研究メンバーが大幅に入れ替わりながらも、今年で12年目を迎えた。

合同授業と我々が名付けたこの授業形態は、総合授業、合科的授業の一つの形であり、今のところ、高校の芸術4教科による授業実践が中心である。授業に統一テーマを設定し、そのテーマに沿った各々の教科の授業を、生徒が、自身の選択教科に限らず、全て受講するという形で行ってきている。参考のため、以下に、本研究実践開始当初のねらいを掲げておく。

- (1) 今日の教育の弱点である教科至上主義・教科セクショナリズムの傾向を正し、生徒に対し、総合的・系統的な芸術教育をなすための総合教育をおこなう。
- (2) 芸術の切れ切れの部分的知識の羅列をもて遊ぶ生徒ではなく、体系的に学問を知り、芸術とは何かの問いに、前向きに対するような生徒を養うための教育である。

以上のねらいに沿って、本年まで10年に渡り、研究と実践を重ねてきているが、授業形態そのものの有効性は、ほぼ確認されてきており、又、本授業実践にふさわしい統一テーマも蓄積されつつある。本年の研究と実践は今までの積み重ねを踏まえ、新しい方向性を探るとともに、付随して見えてきた種々の問題点の解決を目ざし、「合同授業」をより有効で普遍的なものへと形作ってゆく一つの段階である。

〔1〕本年の研究と実践について

本年は、今までの研究での最大の懸案であった、年間のカリキュラムへの定着という課題解決の方向性を探るため、単一学年ではなく、高校1年生、高校2年生という2学年を対象に授業実践を行った。本年度授業対象となる高校1年生は、このような授業形式は初めてであるが、高校

2年生は昨年、同様の形式の授業を受けており、2年目になるわけである。授業前と授業後にアンケート調査を行い、本年は主に、

- (1) 高校1年生と高校2年生の発達段階の差による反応の差異
- (2) 高校2年生の、1年目の昨年と2年目の今年の反応の差異

を見ることによって、本授業形態の年間カリキュラムへの定着を探る手がかりをつかむことにねらいを置いた。又、将来的には、中学校技術科との本格的な連携も課題として残っているが、本年は、技術科は、事前と事後の協議に参加するにとどまった。

◎62年度の合同授業内容

・実施形態

芸術の授業4時間(2週)を合同授業にあて、各教科選択者は自選択教科から始めて、それぞれの教科で1時間ずつ行われた授業(講義・レコード鑑賞・スライド鑑賞・実物鑑賞等)を受けた。各教科に於ける、指導の観点・目標・指導過程を以下にあげる。

(イ) 音楽科

○指導の観点

我々の周囲には常に音楽が氾濫しているが、その根は、ほとんどがヨーロッパ音楽である。しかし音楽は人々が生活するところにはどこにでも存在し、生き活きと脈打っている。にもかかわらず、我が国では、日本を含めたヨーロッパ以外の異民族の音楽についての認識、関心は非常に薄く、また評価も低い。そういう意味からも、身近な東洋の音楽について識ることは意義があることと思われる。

音楽の東流の主要な伝路でもあるシルクロード上には、今も東洋の音楽の貴重な遺産が生きて存在している。又、シルクロードは過去日本の音楽にも多大な影響を与えてきた。

シルクロード上の音楽について知識を得させながら、共に音楽そのものにも触れ、シルクロード上の音楽の総合的な理解の一端としたい。又民族的な音楽の良さに少しでも気づかせ、関心を高める端緒としたい。

○指導の目標

- ・音楽がシルクロード上を西から東へ流れた潮流を主として各地の楽器からさぐる。
- ・主として、源流地点の音楽と現代作曲のものをレコードとビデオで鑑賞し、シルクロード上の音楽と民族的な特色を理解、感得させる。
- ・民族音楽のもつ生命感を感得させ、生きている音楽とは何かを考えさせる。

○指導の過程

- ・本時の内容、ねらいについて知らせる。
- ・生きている民族的な音楽の持つ、素朴だが生命感にあふれた点について知らせる。(プリント)
- ・シルクロード上の、音楽に関係の深い地点についてと、それ等の地点に残された壁画や浮彫に

みる楽器から、音楽の東流とその道をさぐる。(プリント)

- ・唐代楽器について、その起源と東流をみる。(プリント)
- ・主として、東流の源流地点の音楽を聴く。(レコード)(楽器の写真、図を参照しながら、音色にも十分な注意をはらわせる)

- 1) 結婚式のおどりの音楽(トルコ)
- 2) シュール旋法によるサントウールの独奏(イラン)
- 3) ムガール宮廷のカタックダンス(インド)
- 4) 雨の唄(アフガニスタン)
- 5) 器楽(カシミール)

- ・ビデオ鑑賞(NHK放送のものから)

(現代に作曲された曲、楽器とその演奏法にも注意を向けさせながら)

- 1) 元二の安西に使用するを送る(管子と琵琶)
- 2) 十面埋伏(琵琶)
- 3) タキシームのセガ(ウード)
- 4) 蘆笙舞(蘆笙)
- 5) 私のレワーブ(レワーブ)

- ・本時のまとめ

(ロ) 美術科

○指導の観点

ここ数年、シルクロードについての一般的関心が高まり、テレビのシリーズ番組等も好評を博し、高校生もその何割かは、シルクロードについてのおよその知識を持っているものと思われる。このような状況を踏まえ、美術科としては特に、彫刻、壁画、建築等の美術的遺産を取り上げ、シルクロード上の芸術の総合的理解の一端としたい。

○指導の目標

- ・シルクロード上の芸術について、各々の宗教による影響を理解させる。
- ・民族の相互移入による芸術への影響を理解させる。

○指導の過程

- ・本時の学習内容の概略を知らせる。
- ・シルクロードのルートの内、オアシス路(今回中心的に取り上げる)について、その役割、特徴を理解させ、スライドで紹介する地域、都市の位置を把握させる。(プリント)
- ・ルート上の美術的遺産をヨーロッパ側から中国側へと順に取り上げ、解説する。(スライド鑑賞)
- ・本時の内容のまとめをする。

(ハ) 工芸科

○指導の観点

シルクロードを移動した工芸品の中から、装身具（アクセサリ）を限定し取り上げ、スライドにて鑑賞する。と言うのは、数多くの工芸品を取り上げるには時間的問題もあり、基礎知識の希薄な高校生を対象にした時、幅を広げる事は、目的そして認識さえも曖昧に終わってしまう可能性が高く、本時（本授業）においては装身具と言う一つの物を通して、シルクロード上における工芸品の技術、物品の移動、及び、地域、歴史、民族、宗教とシルクロードの関わりを明らかにすることを第一議としたい。

次に、地域を中近東、中央アジア地域（東はアフガニスタン、パキスタンから西はトルコまで）に限り、紀元前から近代にかけ、現在の地域（国名）の中で比較鑑賞し、（鑑賞、認識する場合、比較する事により、共通項、違いを見分ける初歩学究と考え）理解する領域を明確にする。

○指導の目標

- ・装身具の技術（金銀細工、宝石技法等）が、シルクロード上においてどのような時代背景を持って移動し、影響し合っているかを理解する。
- ・装身具が、地域、時代、宗教、民族性等の要素の上でどのような表現として出てくるか因果関係を理解する。
- ・一つの地域において、紀元前から近代にかけて、どのように変化していったのかを知る。

○指導の過程

- ・本時の学習内容の説明
- ・シルクロードの工芸品についての簡単な解説
- ・工芸品の中の装身具についての説明
- ・スライド鑑賞

取り上げる地域（アフガニスタン、パキスタン、トルクメン、タジク、ウズベク、イラン、シリア、イラク、レバノン、トルコ、ヨルダン）

地域的特色、素材と形、技術（技法）の特色の理解

装身具の歴史的背景の認識

- ・短時間の制作（装身具のデザイン）
- ・本時の学習のまとめ

（二）書道科

○指導の観点

近代になり、スタイン・ペリオ・大谷などの探検隊により、幻とされていた漢代の肉筆や唐代の拓本などがシルクロード上の遺跡から多数発見された。これらの探検隊が書道の新資料の発見にはたした役割は非常に大きい。シルクロード上で発見された古名跡の書法をさぐるだけでなく、発見秘話をまじえながらシルクロードの交易が書道に及ぼした影響を総合的にさぐる。

○指導の目標

- ・スタイン・ペリオ・大谷探検隊が書道史上に与えた影響を理解させる。
- ・木簡を中心として、紙が発見される以前の筆写方法及び書法を体験させる。

○指導の過程

- ・シルクロード上の遺跡から発見された古名跡（木簡・竹簡・温泉銘の拓本など）を知らせる。
- ・敦煌莫高窟における大量の古写経の発見と保存状況について知らせる。（プリント）
- ・ペリオ・スタイン・大谷探検隊に対する今日の評価について
- ・木簡の書法について
- ・実物を鑑賞させる
- ・シルクロードの交易が書道史上に及ぼした影響をまとめる。

〔2〕アンケート調査について

対象生徒の高校1年生と高校2年生に対し、授業前と授業後にアンケート調査を行なった。授業前には生徒の知識・経験・関心等を中心に、授業後は、理解度・興味や関心の変化・合同授業についての意識等について調査した。

○授業前アンケート設問

(1) 次にあげる項目は、シルクロードと関係の深い芸術に関する項目ですが、知っている項目の記号にマルをつけなさい。

（音楽）（イ）琵琶 （ロ）笙 （ハ）箏篋（くご） （ニ）横笛（おうてき）

（ホ）十部伎 （ヘ）西涼楽（せいりょうがく）（ト）胡楽（こがく）

（美術）（イ）敦煌莫高窟（とんこうぼっこうくつ）（ロ）雲崗の石窟 （ハ）龍門石窟

（ニ）パーミヤン遺跡（アフガニスタン）（ホ）ペルセポリス（イラン）

（ヘ）パルミラ遺跡 （ト）ニムルド遺跡

（工芸）（イ）唐三彩 （ロ）切子装飾品 （ハ）ブルーモスク （ニ）螺鈿（らでん）細工

（ホ）トルコ石細工 （ヘ）ラスター彩陶器 （ト）寄棟（よせむね）

（書道）（イ）木簡 （ロ）竹簡 （ハ）西域出土の紙 （ニ）敦煌文書

（ホ）大谷探検隊 （ヘ）スタイン・ペリオ （ト）龍門造像記

(2) シルクロード上の芸術についてどの程度の興味や関心がありますか。下記（イ）～（ニ）の内一つを選び表に記号を書き入れなさい。

（イ）大変興味や関心を持っている

（ロ）少し興味や関心を持っている

（ハ）あまり関心がない

（ニ）まったく関心がない

(3) シルクロード上の芸術についてどのような経験がありますか。該当する項目のすべてにマルをつけなさい。又その他の経験があったら具体的に書いて下さい。

- (音楽) (イ) なまの演奏を聴いたことがある
(ロ) テレビ, ラジオ等で演奏を聴いたことがある
(ハ) レコード, テープ等で演奏を聴いたことがある
(ニ) 話として聞いたことがある

その他

- (美術) (イ) 現地で直接そのものを見たことがある
(ロ) 日本の美術館や博物館等で作品を見たことがある
(ハ) テレビ, 写真集等で見たことがある
(ニ) 話として聞いたことがある

その他

- (工芸) (イ) 現地で実物を見たことがある
(ロ) 日本の美術館や博物館等で見たことがある
(ハ) テレビや本等で見たことがある
(ニ) 話として聞いたことがある

その他

- (書道) (イ) 現地(中国)へ行ってそのものを見たことがある
(ロ) 美術館, 博物館等で見たことがある
(ハ) テレビや写真集等で見たことがある
(ニ) 話として聞いたことがある

その他

- (4) シルクロードの交易がシルクロード上の各地の芸術にどの程度の影響を及ぼしていると思いますか。表に記号を書き入れなさい。(音楽・美術・工芸・書道各々について)

- (イ) 非常に大きな影響を及ぼしている。
(ロ) ある程度の影響は及ぼしている。
(ハ) ものによっては影響は及ぼしている。
(ニ) あまり影響は及ぼしていない
(ホ) まったく影響を及ぼしていない

- (5) 授業は通常各教科毎に行なっていますが, 他の芸術教科とからめて行なう今回のような授業形態についてどう思いますか。該当する項目の記号にマルをつけなさい。

- (イ) 非常に良い試みである
(ロ) それなりに意味のある試みである
(ハ) どちらとも言えない
(ニ) あまり良い試みとは言えない
(ホ) 全く意味のない試みである

その他の意見等

(6) 今回は芸術4教科での合同授業ですが、他教科（たとえば社会科とか国語科とか）ともからめておこなうことについてどう思いますか。該当する項目の記号にマルをつけなさい。

(イ) 是非やるべきである

(ロ) できればやったほうが良い

(ハ) どちらとも言えない

(ニ) あまり意味がない

(ホ) まったく意味がない

その他の意見等

<それぞれの設問について>

(1) (知識度) について

音楽の項目の(イ)琵琶については全般的によく知っているが、音楽の他の項目については、特に一般的に知名度の低いものに関し、知識度が低い。音楽選択者の知識度はやはり若干高くなっている。(ト)の胡楽を知っている者が意外に多く驚かされる。

美術の項目については、(イ)敦煌莫高窟は比較的知っている生徒が多いが、全般的に知識度は低い。しかし、知っているとしている生徒の知識も、歴史や地理の一部としての部分的なものであらうと思われる。

工芸の項目については、(イ)の唐三彩が意外に知られていないことがわかる。全般に他教科の項目に比べ知識度が低いのは、興味度の低さと関係があるのかもしれない。

書道の項目については、歴史の知識として(イ)木簡、(ロ)竹簡などが知られているものと見られる。書道選択者の(ト)龍門造像記に対する知識度が抜群に高いのは、書道の教科書に載っているためである。

高校1年生と高校2年生の違いをみると、全体的に高校2年生の方が知識度が高いのは当然といえば当然であるが、これは特に社会科の歴史や地理の受講との関係が深いと考えられよう。

(2) (興味・関心度) について

どの教科の内容についても、思ったほどには興味・関心度が高くない。相対的には生徒自身の選択教科に対する関心度がやや高いのは当然であろうか。その中で書道に関しては、書道選択者の興味度がかかなり高いのに比べ、他教科選択者の興味度が非常に低いのが特徴的である。書道の教科の特性によるところもあると思われる

(3) (今までの経験) について

全般に、テレビ等のマス・メディアによる知識が高い。特に美術、工芸についてはテレビのシリーズ番組によるところが大きいと考えられる。(ニ)の「話として聞いたことがある」という項目はやや漠然としていて、不適切な項目であったかもしれず、数字の意味するところも明確で

アンケート集計 (高校1年生対象・授業前実施)

対象生徒 選抜肢	音楽選択者 (47名)						美術選択者 (41名)						工芸選択者 (33名)						書道選択者 (29名)						対象者全員 (150名)																			
	音楽について		美術について		書道について		音楽		美術		工芸		書道		音楽		美術		工芸		書道		音楽		美術		工芸		書道															
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%														
(1)	イ	38	80.9	12	25.5	0	0	18	38.3	33	80.4	8	19.5	3	7.3	14	34.1	26	78.8	8	24.2	5	15.2	14	42.4	25	86.2	7	24.1	1	3.4	26	89.7	122	81.3	35	23.3	9	6.0	72	48.0			
	ロ	19	40.4	10	21.3	3	6.4	11	23.4	13	31.7	8	19.5	0	0	8	19.5	7	21.2	4	12.1	3	9.1	9	27.3	6	20.7	2	6.9	0	0	11	37.9	45	30.0	26	17.3	17	11.3	39	26.0			
	ハ	0	0	5	10.6	1	2.1	4	8.5	1	2.4	3	7.3	3	7.3	3	7.3	3	9.1	3.0	6.1	1	3.0	1	3.0	0	0	3	10.3	1	3.4	2	6.9	2	1.3	13	8.7	7	4.7	10	6.7			
	ニ	19	40.4	3	6.4	2	4.3	2	4.3	9	22.0	3	7.3	5	12.2	3	7.3	3	9.1	1	3.0	1	3.0	5	15.2	5	17.2	1	3.4	4	13.8	3	10.3	36	24.0	8	5.3	12	8.0	13	8.7			
	ホ	0	0	9	19.1	6	12.8	5	10.6	1	2.4	5	12.2	11	26.8	1	2.4	0	0	4	12.1	1	3.0	1	3.0	0	0	2	6.9	3	10.3	24	82.8	1	0.7	20	13.3	21	14.0	31	20.7			
	ト	4	8.5	2	4.3	0	0	1	2.1	2	4.9	2	4.9	0	0	2	4.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6.9	0	0	1	3.4	8	5.3	5	3.3	0	0	4	2.7				
		10	21.3	1	2.1	5	10.6	2	4.3	11	26.8	0	0	4	9.7	0	0	6	18.2	0	0	3	9.1	0	0	0	3	10.3	0	0	19	65.6	30	20.0	1	0.7	12	8.0	21	14.0				
(2)	イ	2	4.3	4	8.5	3	6.4	1	2.4	5	12.2	2	4.8	1	2.4	2	6.1	2	6.1	2	6.1	5	15.1	1	3.0	3	10.4	3	10.3	2	6.9	6	20.7	8	5.3	14	9.3	13	8.7	11	7.3			
	ロ	15	31.9	18	38.3	16	34.1	8	17.0	10	24.4	15	36.6	9	22.0	7	17.1	8	24.2	11	33.3	10	30.3	3	9.1	4	13.8	6	20.7	6	20.7	10	34.5	37	24.7	50	33.4	41	27.3	28	18.7			
	ハ	22	46.8	18	38.3	19	40.4	23	48.9	24	58.6	17	41.5	21	51.2	22	53.7	17	51.5	17	51.5	15	45.5	21	63.6	11	37.9	10	34.5	9	31.0	10	34.5	74	49.3	62	41.3	64	42.7	76	50.7			
	ニ	8	17.0	7	14.9	8	17.0	13	27.7	6	14.6	4	9.7	9	22.0	11	26.8	6	18.2	3	9.1	3	9.1	8	24.3	11	37.9	10	34.5	12	41.4	3	10.3	31	20.7	24	16.0	32	21.3	35	23.3			
(3)	イ	0	0	1	2.1	0	0	0	0	1	2.4	1	2.4	0	0	1	3.0	1	3.0	1	3.0	1	3.0	1	3.0	1	3.0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1.3	3	2.0	2	1.3	1	0.7	
	ロ	25	53.2	7	14.9	8	17.0	7	14.9	13	31.7	5	12.2	6	14.7	3	7.3	15	45.5	9	27.3	8	24.2	3	9.1	6	20.7	3	10.3	4	13.8	4	13.8	59	39.4	24	16.0	26	17.3	17	11.3			
	ハ	0	0	26	55.3	29	61.7	15	31.9	1	2.4	28	68.3	22	53.7	2	4.9	1	3.0	19	57.6	19	57.6	6	18.2	3	10.3	17	58.6	9	31.0	13	44.8	5	3.3	90	70.0	79	52.7	36	24.0			
	ニ	15	34.1	5	10.6	4	8.5	3	6.4	9	22.0	7	17.1	7	17.1	16	39.0	6	18.2	2	6.1	1	3.0	8	24.2	6	20.7	4	13.8	6	20.7	11	37.9	36	24.0	18	12.0	18	12.0	38	25.3			
(4)	イ	18	38.3	26	55.3	24	51.1	14	29.8	14	34.1	16	39.0	18	43.9	9	22.0	9	27.3	13	39.4	13	39.4	6	18.2	15	51.7	14	48.3	14	48.3	11	37.9	56	37.4	69	47.0	69	47.0	40	26.7			
	ロ	14	29.8	11	23.4	13	27.6	9	19.1	12	29.3	18	43.9	13	31.7	12	29.3	11	33.3	11	33.3	10	30.3	11	33.3	1	3.5	8	27.6	5	17.3	6	20.7	38	25.3	48	32.0	41	27.3	38	25.3			
	ハ	12	25.5	10	21.3	10	21.3	14	29.8	12	29.3	6	14.7	7	17.1	8	19.5	10	30.3	7	21.2	8	24.2	9	27.3	7	24.1	4	13.8	8	27.6	5	17.2	41	27.3	27	21.0	33	22.0	36	24.0			
	ク	3	6.4	0	0	0	0	7	14.9	2	4.9	1	2.4	3	7.3	8	19.5	0	0	0	0	0	0	0	3	9.1	4	13.8	2	6.9	1	3.4	6	20.7	9	7.0	3	2.0	4	2.7	24	16.0		
	ロ	0	0	0	0	0	0	3	6.4	1	2.4	0	0	0	0	4	9.7	3	9.1	2	6.1	2	6.1	4	12.1	2	6.9	1	3.4	1	3.4	1	3.5	6	4.0	3	2.0	3	2.0	12	8.0			
(5)	イ	14	29.8								6	14.6																																
	ロ	19	40.4								14	34.1																																
	ハ	10	21.3								17	41.5																																
	ニ	4	8.5								4	9.8																																
	ホ	0	0								0	0																																
(6)	イ	7	14.9								4	9.7																																
	ロ	11	23.4								13	31.7																																
	ハ	17	36.1								13	31.7																																
	ニ	10	21.3								9	22.0																																
	ホ	2	4.3								2	4.9																																

アンケート集計 (高校2年生対象・授業前実施)

対象生徒 選択肢	音楽選択者 (46名)						美術選択者 (40名)						工芸選択者 (34名)						書道選択者 (27名)						対象者全員 (147名)																				
	音楽について		美術について		工芸について		書道について		音楽		美術		工芸		書道		音楽		美術		工芸		書道		音楽		美術		工芸		書道														
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%															
(1)	イ	41	89.1	10	21.7	6	13.0	25	54.3	28	70.0	15	37.5	6	15.0	13	32.5	32	44.1	15	44.1	9	26.5	16	47.1	23	67.6	6	22.2	3	11.1	19	70.3	124	84.4	46	31.3	24	16.3	73	49.7				
	ロ	17	37.0	10	21.7	2	4.3	18	39.1	14	35.0	10	25.0	3	7.5	11	27.5	6	17.6	8	23.5	3	8.8	13	38.2	10	37.0	1	3.7	0	0.0	14	51.8	47	32.0	29	19.7	8	5.4	56	38.1				
	ハ	5	10.9	4	8.7	2	4.3	2	4.3	4	10.0	2	5.0	4	10.0	2	5.0	2	5.6	5	14.7	1	2.9	3	8.8	0	0.0	0	0.0	7	25.9	3	11.1	2	7.4	11	7.5	26	17.7	8	5.4	11	7.5		
	ニ	19	41.3	7	15.2	3	6.5	9	19.6	14	35.0	4	10.0	5	12.5	6	15.0	4	11.8	2	5.9	5	14.7	9	26.5	3	11.1	4	14.8	2	7.4	7	25.9	40	7.2	27	18.4	15	10.2	31	21.1				
	ホ	2	4.3	14	30.4	5	10.9	4	10.0	11	27.5	11	27.5	2	5.0	1	2.5	2	5.6	14	41.2	1	2.9	9	26.5	14	41.2	1	3.7	3	11.1	7	25.9	9	33.3	8	5.4	37	25.2	46	31.3	17	11.6		
	ト	4	8.7	12	26.1	1	2.2	5	12.5	13	32.5	2	5.0	0	0.0	2	5.0	2	5.6	3	8.8	1	2.9	3	8.8	4	11.8	3	11.1	3	11.1	1	3.7	13	8.8	39	26.5	5	3.4	3	2.0				
		11	23.9	3	6.5	7	15.2	1	2.2	13	32.5	2	5.0	4	10.0	1	2.5	9	26.5	0	0.0	4	11.8	3	8.8	7	25.9	3	11.1	3	11.1	2	7.4	40	27.2	8	5.4	18	12.2	7	4.8				
(2)	イ	7	15.2	5	10.9	3	6.5	1	2.2	7	17.5	9	22.5	8	20.0	4	10.0	1	3.0	3	8.8	5	14.7	0	0.0	5	18.5	4	14.8	5	18.5	7	25.9	20	13.6	21	14.3	21	14.3	12	8.2				
	ロ	15	32.6	8	17.4	5	10.9	4	8.7	13	32.5	12	30.0	9	22.5	6	15.0	7	20.6	11	32.4	13	38.2	4	11.8	6	22.3	41	27.9	42	28.6	35	23.8	35	23.8	20	13.6	35	23.8	20	13.6				
	ハ	14	30.4	18	39.1	21	45.6	20	43.5	8	20.0	10	25.0	13	32.5	14	35.0	13	38.2	8	23.5	10	29.4	10	29.4	8	29.6	5	18.5	6	22.3	8	29.6	43	29.3	41	27.9	50	34.0	52	35.4				
	ニ	10	21.8	15	32.6	17	37.0	21	45.6	12	30.0	9	22.5	10	25.0	16	40.0	13	38.2	12	35.3	6	17.7	20	58.8	8	29.6	7	25.9	6	22.2	43	29.2	43	29.2	41	27.9	63	42.8						
	ホ	4	8.7	2	4.3	2	4.3	2	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	2.7	2	1.4	2	1.4	2	1.4				
(3)	イ	19	44.2	8	17.3	5	10.9	2	4.3	19	47.5	11	27.5	12	30.0	6	15.0	13	38.2	7	20.6	3	8.8	3	8.8	8	29.6	5	18.5	6	22.2	10	37.0	59	40.1	31	21.1	26	17.7	21	14.3				
	ロ	8	17.4	33	71.7	21	45.7	8	17.4	0	0.0	12	30.0	14	35.0	10	25.0	2	5.6	19	55.9	21	61.8	12	35.3	3	11.1	17	63.0	9	33.3	13	8.8	81	55.1	68	46.3	39	26.5						
	ハ	12	26.1	7	15.2	12	26.1	9	19.6	8	20.0	5	12.5	8	20.0	7	17.5	7	20.6	3	8.8	4	11.8	10	29.4	10	37.0	7	25.9	6	22.2	37	25.2	22	15.0	30	20.4	32	21.8						
	ニ	17	37.0	24	52.5	17	37.0	12	26.1	19	47.5	24	60.0	23	57.5	14	35.0	13	38.2	17	50.0	18	52.9	11	32.4	12	44.5	14	51.9	12	44.5	8	29.7	61	41.5	79	53.8	70	47.6	45	30.6				
	ホ	11	23.9	7	15.2	11	23.9	9	19.6	11	27.5	7	17.5	10	25.0	11	27.5	6	17.7	7	20.6	5	14.7	6	17.6	8	29.6	7	25.9	5	18.5	7	25.9	36	24.5	28	19.0	31	21.1	33	22.5				
(4)	イ	13	28.3	12	26.1	14	30.4	14	30.4	5	12.5	7	17.5	6	15.0	8	20.0	15	44.1	10	29.4	11	32.4	10	29.4	7	25.9	6	22.2	7	25.9	8	29.6	40	27.2	35	23.8	38	25.9	40	27.2				
	ロ	3	6.5	0	0.0	1	2.2	5	10.9	5	12.5	2	5.0	1	2.5	4	10.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	8.8	0	0.0	0	0.0	2	7.4	3	11.1	8	5.4	2	1.4	4	2.7	15	10.2				
	ハ	2	4.3	3	6.5	3	6.5	6	13.0	0	0.0	0	0.0	3	7.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	11.8	0	0.0	0	0.0	1	3.7	2	1.4	3	2.0	4	2.7	14	9.5						
	ニ	9	19.6	19	41.3	14	30.4	14	30.4	5	12.5	7	17.5	6	15.0	11	27.5	6	17.7	7	20.6	5	14.7	6	17.6	8	29.6	7	25.9	5	18.5	7	25.9	36	24.5	28	19.0	31	21.1	33	22.5				
	ホ	11	23.9	9	19.6	11	23.9	9	19.6	11	27.5	7	17.5	10	25.0	11	27.5	6	17.7	7	20.6	5	14.7	6	17.6	8	29.6	7	25.9	5	18.5	7	25.9	36	24.5	28	19.0	31	21.1	33	22.5				
(5)	イ	6	13.0	10	21.7	7	15.2	1	2.2	6	13.0	0	0.0	3	7.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	14.7	19	12.9	49	33.3	37	25.2	12	8.2	30	20.4								
	ロ	19	41.3	11	23.9	9	19.6	9	19.6	9	22.5	9	22.5	11	27.5	11	27.5	11	32.4	11	32.4	10	29.4	10	29.4	10	29.4	10	29.4	10	29.4	10	29.4	10	29.4	10	29.4	10	29.4	10	29.4	10	29.4	10	29.4
	ハ	1	2.2	2	4.3	3	6.5	3	6.5	3	6.5	3	6.5	3	7.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
	ニ	1	2.2	2	4.3	3	6.5	3	6.5	3	6.5	3	6.5	3	7.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
	ホ	6	13.0	10	21.7	7	15.2	1	2.2	6	13.0	0	0.0	3	7.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
(6)	イ	6	13.0	9	19.6	5	12.5	4	10.0	4	10.0	2	5.0	2	5.0	2	5.0	2	5.6	2	5.6	2	5.6	2	5.6	2	5.6	2	5.6	2	5.6	2	5.6	2	5.6	2	5.6	2	5.6	2	5.6	2	5.6		
	ロ	13	28.3	8	17.4	9	22.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5	7	17.5		
	ハ	15	37.5	8	17.4	15	37.5	8	17.4	15	37.5	8	17.4	15	37.5	8	17.4	15	37.5	8	17.4	15	37.5	8	17.4	15	37.5	8	17.4	15	37.5	8	17.4	15	37.5	8	17.4	15	37.5	8	17.4	15	37.5		
	ニ	9	22.5	7	17.4	9	22.5	7	17.4	9	22.5	7	17.4	9	22.5	7	17.4	9	22.5	7	17.4	9	22.5	7	17.4	9	22.5	7	17.4	9	22.5	7	17.4	9	22.5	7	17.4	9	22.5	7	17.4	9	22.5		
	ホ	7	17.5	13	38.2	7	17.5	13	38.2	7	17.5	13	38.2	7	17.5	13	38.2	7	17.5	13	38.2	7	17.5	13	38.2	7	17.5	13	38.2	7	17.5	13	38.2	7	17.5	13	38.2	7	17.5	13	38.2	7	17.5		

ない。

(4) (シルクロードの芸術への影響についての認識) について

全般にどのジャンルについても、シルクロードがその交易などによって芸術に影響を与えたと考える割合が高いが、書道に関してはそうでないとする生徒も比較的多い。

(5) (合同授業の是非) について

高校1年生、2年生とも、55%程度の生徒が肯定的である。高校1年生で(ハ)「どちらとも言えない」と答えた生徒が多いのはまだ授業を受けたことがないための正直な答えであろう。

(6) (他教科の参加) について

高校1年生、2年生とも賛成、反対が相半ばである。(ハ)「どちらとも言えない」がかなり多く、今後、他教科に参加を呼びかけ、実践して、成果を検討すべきであろう。

○授業後アンケート項目

(1) シルクロード上の芸術についてそれぞれの教科でどの程度理解できましたか。受講したそれぞれの教科については該当する選択肢の記号を枠の中に書き入れなさい。

- (イ) 良く理解できた
- (ロ) 少し理解できた
- (ハ) あまりよく理解できなかった
- (ニ) まったく理解できなかった

(2) シルクロード上の芸術について、どの程度の関心や興味を持ってましたか。全体と各教科について該当する選択肢の記号を枠の中に記入しなさい。特に関心を持ったものがあれば具体的に記して下さい。

- (イ) 大変興味や関心を持った
- (ロ) 少し興味や関心を持った
- (ハ) あまり興味や関心を持てなかった
- (ニ) まったく興味や関心を持てなかった

(3) 今回おこなった合同授業という授業形式についてどう思いますか。該当する記号にマルをつけなさい。又、その理由・感想等を具体的に書いて下さい。

- (イ) 大変良いと思う
- (ロ) 良いと思う
- (ハ) どちらとも言えない
- (ニ) あまり良くない
- (ホ) 非常に良くない

(4) 今回は芸術科だけの合同授業でしたが、このような授業の経験から、芸術科以外の教科も加わって合同授業をおこなうことについてどう思いますか。該当する項目にマルをつけなさい。

アンケート集計（高校2年生対象・授業後実施）

対象生徒 項目	音楽選択者（33名）						美術選択者（29名）						工芸選択者（19名）						書道選択者（22名）						対象者全員（108名）									
	音楽について		美術について		工芸について		書道について		音楽		美術		工芸		書道		音楽		美術		工芸		書道		音楽		美術		工芸		書道		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
(1) イ	517.1	412.1	39.1	721.2					620.7	1034.5	517.2	517.3	736.8					522.7	627.3	522.7	522.7	522.7				2322.3	26	25.2	2322.3	24	23.3			
理	1030.3	1236.4	1442.4	1236.4				1655.2	1758.6	2275.9	1344.8	421.1						1150.0	1254.5	1463.6	1463.6				4341.8	51	49.5	5654.4	43	41.7				
解	1339.4	1236.4	1236.3	927.3				620.7	26.9	26.9	620.7	421.1						313.6	313.6	29.1	29.1				2625.2	19	18.5	1817.5	22	21.4				
度	515.2	515.1	412.1	515.1				13.4	0	0	517.2	315.8						313.7	14.6	14.6	14.6				1110.7	7	6.8	65.8	14	13.6				
(2) イ	13.0	13.0	26.1	26.1				827.6	827.6	1137.9	1137.9	517.2						418.2	522.7	418.2	627.3	522.7				522.7	18	17.5	2019.4	26	25.2			
関	1133.3	1133.3	1030.3	824.2				824.2	1344.8	1655.2	1241.4	1965.5	736.8	842.1	421.1	210.5	947.4	836.3	940.9	940.9	731.8	940.9				940.9	39	37.9	7944.2	7	6.5			
心	1339.4	1339.4	1339.4	1236.3				724.2	517.2	517.3	517.3	517.3	421.1	315.8	421.1	947.4	421.0	627.3	522.7	627.3	627.3				627.3	30	29.1	2625.3	28	27.2				
度	824.3	824.2	1133.3	824.2				13.4	0	13.4	3.4	0	315.8	210.5	210.5	526.3	210.5	418.2	313.7	313.7	313.6	313.6				29.1	16	15.5	1312.6	14	13.6			
(3) イ								515.2				310.4						210.5								418.2					1413.6			
合								515.1				1034.5						421.0								627.3					2524.3			
同								1339.4				724.1						315.8								522.7					2827.2			
授								721.2				827.6						631.6								418.2					2524.3			
業								39.1				13.4						421.1								313.6					1110.6			
否																																		
ホ																																		
(4) イ								39.1				26.9						210.5								29.1					98.7			
他								39.1				620.7						15.3								313.6					1312.6			
参								1133.3				1448.3						421.1								14.6					3029.1			
教								1236.4				413.8						1263.1								1150.0					3937.9			
科								412.1				310.3						0								522.7					1211.7			
の																																		
加																																		
ホ																																		
(5) 頻								2575.8				2689.7						1789.5								1359.1					8178.6			
度								824.2				310.3						210.5								940.9					2221.4			
イ								515.2				931.1						736.8								29.1					2322.3			
ロ								824.2				724.2						421.1								731.8					2625.3			
他								1133.3				1137.9						631.6								522.7					3332.0			
の								39.1				13.4						210.5								522.7					1110.7			
学								618.2				13.4						0								313.6					109.7			
実																																		
年																																		
で																																		
施																																		
ホ																																		

なテーマであったことによるものかもしれない。理解度が昨年、今年と同程度であることを考えると、各教科の授業が短時間のため、深く掘り下げることができず、生徒の興味を強く引きつけるところまで至らなかったと思われる。

(3) (合同授業の是非) について

合同授業という授業形態に対する評価は、高校1年生では、書道選択者が授業前から授業後へと大幅に上昇しているのに対し、工芸選択者の評価が大きく落ちこんでいる。これは、工芸という教科が、4教科の中で最も手作業のウエートの大きい教科であり、選択している生徒も、講義形式の授業より制作を好む傾向が特に強いことによるものかもしれない。

高校2年生では、音楽選択者の評価が大きく下がったが、他の教科選択者はあまり数値が変わっていない。

全体として、合同授業歓迎派が、高校1年生で55%程度、高校2年生で40%程度となっており、高校1年生の評価に比べ、2年目である高校2年生の評価が低くなっている。これは、授業形態への評価より、テーマ、内容のおもしろさに対する評価が数値に表われたと見た方がよさそうである。事実、この設問の理由、感想欄を見てみるとそのことが感じとれるので、以下に代表的な意見を上げておくことにする。(内容的に近いものをまとめてある)

- ・芸術に対し色々な見方ができ、広く芸術が理解できて良い (16人)
- ・色々な科目を受けることにより知識が総合的になり、幅広い人間形成ができる (7人)
- ・他の芸術科の授業の様子がわかって良い (11人)
- ・新鮮で良い (7人)
- ・1教科1時間では短かく、中途半ばである。内容を濃くしてほしい (12人)
- ・楽しい (11人)
- ・多方面に興味を持てるようになり良い (2人)
- ・テーマに関心が持てず、内容を考えてほしい (11人)
- ・シルクロードのテーマがよかった (2人)
- ・4教科全部で行なわなくてもよいのではないか (2人)
- ・制作を伴う内容にしてほしい (2人)
- ・一つのテーマに関し認識が深められてよい (3人)
- ・自分の選択教科だけで充分 (2人)

以上の意見をみても、合同授業という形態に対しては肯定的な意見が多いが、その展開の仕方についての的を得た批判もある。大別すると、テーマの吟味ということ、時間をとって内容を濃いものにとということ、講義、鑑賞だけでなく、制作も含めてほしいということ、になるであろう。この中には、今後問題解決を考えていかなければならない事が残されている。

(4) (他教科の参加) について

他教科の参加 (とりあえずは歴史や地理などが想定される) の是非については、高校1年生で

賛成、反対が30%程度ずつ、高校2年生で賛成20%、反対50%となっており、全体として他教科の参加を歓迎していない。これは、他教科（社会科など）が加わると、増々講義中心の授業内容に傾いてゆくことへの懸念であろうか。しかし、いずれにせよ他教科の参加を実践してみて、そのプラス面、マイナス面を検討してみるべきであろう。

(5) (合同授業実施の頻度) について

現状程度（年1回）でよいという意見が多くを占めるが、選択生徒により違いがあり、工芸選択者は、現状程度でという意見が90%にもなるが、書道選択者は半数近くがもっと多い方がよいとしている。この数値の違いは、普段の授業の内容との関わりからきているのかもしれない。合同授業のテーマや内容が普段の授業に近いほど、合同授業に対する評価が高くなるように考えられる。

より多く、という意見の具体的なものとしては、年間2～3回、あるいは、年間1回で、各教科2時間ずつ合計8時間で、というものが多く。（現在は年間1回計4時間）

(6) (他学年での実施) について

高校1年生、2年生とも半数近くが肯定的で、高校1年生では次年度への期待を、高校2年生では、昨年、今年と2年続けて行なったことへのある程度の評価であると考えてよいであろう。

◎ 総括

本年度の授業実践を終え、その成果と問題点の検討の中で、いくつかのことが明らかとなり、次年度への課題も残された。

合同授業の年間カリキュラムの定着のために、本年度は2学年に対し授業を行なったが、合同授業そのものは、1学年で行なうより、2学年で続けて行なった方がより効果的であるということが明確となった。生徒の発達段階との関わりということについては、これは授業形態の問題でなく、内容、テーマの設定の問題であることが今回、より明白となったと言えるであろう。生徒の発達段階に合わせたテーマの設定とその蓄積が今後の課題である。

アンケート調査結果の、特に筆記部分からみた生徒の注文の中味を要約すると、①テーマを吟味してより興味を持てる内容にしてほしいということ、②内容を広く浅くでなく密度の濃いものにしてほしいということ、③制作等も伴う内容にしてほしいということ、になる。これらの指摘はもっともな部分が多い。

統一テーマに関しては、音楽、美術、工芸、書道の4教科を網羅し、普遍的でかつ現代の生徒が興味を持てるものを設定することがなかなか難しいということがある。今後、ふさわしいテーマの探究に努力することは当然であるが、場合によっては4教科にこだわらず、2教科ずつの組み合わせでテーマをみつけ授業を実践してゆくことも必要かもしれない。

より密度の高い内容に、ということについては、授業者としてもそうしたいのは当然であり、授業時間を増やせば問題はかなり解決できるのであるが、平常の各科の授業とのかねあいを考え

た時、現状の各教科1時間ずつ計4時間の範囲でいかにコンパクトでかつ濃い内容にするかということが課題であろう。

各教科の授業の展開の仕方についても、時間の制約が障害となっており、時間に余裕があれば、生徒自身の制作等も取り入れ、よりバリエーションに富んだ内容にしてゆきたいところである。現状の範囲では、逆に、制作等を前面に押し出した、生徒の制作、作業中心の合同授業を試みることも考えてゆくべきかもしれない。講義や鑑賞だけでなく、制作等の面でも共通のテーマを設けることは、決して不可能ではないであろう。

前にあげたことの他に更に大きな今後の課題として、今回の調査結果では生徒の反応は否定的であるが、他教科に参加を呼びかけることは、実現させる価値はある。社会科や国語科、あるいは理数系の教科でも充分可能性はある。

合同授業を中学校段階へと進めてゆくことも将来的な課題として残っている。中学校の技術科に本格的に参加を仰ぎ、技術科、美術科、音楽科、国語科書写などで展開してゆき、中高一環教育の中でその成果を高校段階へと持ちこしてゆくことが理想的であろう。

総合授業、合科的授業は決して低年齢のみに有効なのではなく、中等教育の中学校、高等学校でも十分に有効であり、とかく教育段階が上がるにつれ、教科、科目が分化してしまうことによって生まれる弊害の部分を補なうことを、芸術という教科を中心に行なってゆくことが重要である。